

第61回西高祭実施

国にまつわる企画多数 世界へ目を向けるきっかけに

千西一遇

第123号
発行
2025年
9月3日(水)

上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：塚田 礼
新聞委員長：大澤 理子

小林 さら
齋藤 悠生
井上 さゆり
齋藤 増心
小島 佳音
倉宮 和
平 日葵

レイアウト：塚田 礼



開祭式にて全校による Smile shot

7月5日(土)、6日(日)の2日間、第61回西高祭が実施された。今年度は「as we World」というテーマで、世界の国々にちなんだクラス・部活企画が行われた。クラス企画では飲食企画を実施したクラスが多く、衛生面に気をつけながら取り組む姿勢が見られた。また初めて西高祭に挑んだ1年生のクラスが多く、賞を受賞する活躍も見られ、学校全体が活気を持ってつくり上げる文化祭となった。

(塚田 礼)

今年のテーマは

「Let's feel the World」

第61回である今年度の西高祭は「as we World」というテーマで創り上げられた。このテーマは世界で国の枠を越えた繋がりが増えている中で、私たちの海外諸国に対する無理解を踏まえ、世界各国へ目を向け世界の国々について理解を深めてもらいたいという想いが込められている。そのため、今年の西高祭では全てのクラスの企画がそれぞれのクラスで話し合って決められた国をコンセプトにした企画となった。また毎年恒例であるスタンプラリーは各クラスで制作した入国証印のようなスタンプをバスポート風のパンフレットに集めるようなかたちで実施した。

西高祭実行委員長の堀内悠羽さんは「パンフ

レットをバスポート風にすることで海外旅行気分を味わってもらえた。これまでには行われていなかったプレオープンを文化祭の前日に設けることでクラスの運営や展示作品の制作を進めて

さらに良い文化祭にできた」と話した。

バスポートスタンプ企画を担当した生徒会役員の中井瑞希さんは「スタンプのデザインを各クラス

メイン企画 中庭に特大地球儀



生徒会役員により制作された地球儀



ブラジルがテーマの「リオの狙撃者」

進めてきた。アイデアは生徒会役員での話し合いから生まれ、「世界を感じられる企画にしたい」という想いが込められている。生徒会長の滝沢優花さんは、「世界をテーマにした時、地球儀の案が出ました。ペットボトルキャップを使うことで環境問題にも関心を持ってもらいたいと考えました」と語っていた。単なる装飾ではなく、社会的なメッセージ性を大切にした企画である。最近ではSDGsが注目されており、学校行事でもこ

に決めてもらうことでそれぞれのデザインの良さがあつた。初の試みでスタンプラリーが上手く実施されていないクラスもあり不安も感じたが一般のお客さんがスタンプを押してもらっているのを実際に見て上手くいった。

今年も初めての挑戦が多くある文化祭となったが、クラス企画やさまざまな企画が

うした取り組みが行われるのは大変意義深い。しかし、制作は順調とは言えなかった。骨組みに使う木材のサイズを間違え一度完成させた内枠を文化祭のわずか一週間前に作り直すことに。また、雨天続きで外作業がたびたび中断され、スケジュールは大幅に遅れてしまつた。結果として文化祭当日までに完成には至らなかったが、骨組みと一部装飾された状態の地球儀は中庭に展示され、多くの来場者の注目を集めた。

滝沢会長は「完成できなかったのは悔しいけれど、多くの人が関わったことに意味がある」と振り返った。行事の成功は完成度だけでなく、そこに至るまでの努力や協力も大切である。未完成ではあつたものの、この地球儀は文化祭の象徴となる企画であつた。

(大澤 理子)



メキシコがテーマの「死者の日のカラフル・アイス with MEXICO」

また企画を通してそれぞれの国の雰囲気や文化を感じることができた。狙い通り、来場者や生徒が世界各国に興味を持つきっかけを作ることができたのではないだろうか。

(齋藤 瑠心)

西高祭に弾みを

新たな試みと奮闘の前後祭

今年度の前後祭は開祭式とプレオープンが行われた7月4日に開催された。当初は「ブレイキン・グダウン」という新企画をメインの企画として準備していたが、有志が集まらず急遽クイズ大会へと企画を変更して実施された。生徒会役員の佐藤椿季さんと青木咲和さん、小出正翔さんは「本番1週間前に企画を考え直し、不安も多くあったが楽しんでもらえるように参加者などへの景品を用意するなど工夫した」と企画の背景を明かした。クイズ大会参加者はその場で募らざるをえない状況であったため参加者が集まらないという不安もあった。



前後祭を盛り上げる MC を務めた放送委員会

と反省点を話したが「みんなでもやりきれたのでよかった」と話した。文化祭直前の企画変更や準備時間不足など思い通りに進まない状況だったが、前後祭の企画は大成功を収め、文化祭に向かう雰囲気づくりを後押しした。(齋藤 瑠心)

文化学園長野恒例コラボ

西高祭の恒例企画である文化学園長野高等学校とのコラボ企画が今年も開催され学校全体を大いに盛り上げた。今年は文化学園によるファッションショーに加え、初の試みとなる限定コラボグッズの販売も行われた。情報共有が難しい中、両校で目標を定め、話し合いを重ねてデザインされたオリジナルタオルである。企画運営を担当した生徒会役員の寺島さくらさんは「学校が違ってもこの視点の違いが知れてとても興味深く楽しかった」と振り返る。



文化学園長野によるファッションショー

石川支援企画 西高から広がる支援の輪

一般公開日、2つの石川支援活動が実施され多くの来校者で賑わっていた。中庭では、石川物産展のブースが設けられ、石川県の高校生が手がけた「ミルクと塩」や「福来 FUCOO」などが販売された。担当した樋口真帆さんは「被災地が少しでも活気を取り戻せるようにと企画し、4月後半から本格的に石川の高校と連絡を取り合い商品の仕入れを行ったという。文化祭当日、実際に商品販売する中で「購入者の方々から石川県への温かい想いと応援の言葉に力を



コラボキムチ販売の様子

もらったが、それと同時に石川県の震災はもう終わったものという雰囲気を感じ、風化させてはいけないと改めて感じる機会になった」と語る。今後もボランティアなどを通して支援し続けたいと意気込んだ。またピロティでは JRC 部・家庭科部・上田市の韓国食料品店「韓国屋」とのコラボキムチも販売された。キムチの入れ物には上田西のマスケットキャラクターがあらわれ、その売り上げ金が被災地に寄付されるという企画だ。家庭科部部長の鈴木美唯菜さん、JRC 部部長の高橋琉菜さんは当日を迎えるまでの準備期間を「情報共有や韓国屋さんとのスケ

3年4組最優秀賞獲得

第61回西高祭受賞団体一覧

クラス企画			
最優秀賞	3年4組		
優秀賞 (展示)	1年6組		
優秀賞 (飲食)	3年1組		
アイデア賞	1年2組	1年5組	
テーマ賞	1年7組	3年8組	
PTA 賞	1年8組		
クラブ企画			
ステージ部門	最優秀賞	吹奏楽部	
	優秀賞	書道部	
展示・飲食部門	最優秀賞	軽音楽部	美術部
	優秀賞	家庭科部・JRC 部	
カラオケコンテスト優勝		小池海里さん	
ポスター賞		中澤満里菜さん	
校門アーチ賞		中山心結さん	
ステージバック賞		浦野七帆さん	
		今井遥翔さん	



PTA 審査賞からの景品を掲げる生徒

今年度、西高祭の最優秀賞に輝いたのは3年4組の「4.s.c.a.f.e」となった。韓国や日本でも人気のクルンジをハニライスと組み合わせ、ネオンカフェをイメージした教室で韓国の雰囲気を感じられる内装やオブ



最優秀賞発表の瞬間

ジュール調整が難しかった」と振り返る。今回の企画を通し誰かのために頑張る素晴らしさを感じた部員たち。1人でも多くの方が笑顔に暮らせる場所に変わっていくよう支援の輪を広げていきたい。(小林 未侑)

また、今年の西高祭では1年生のうち5クラスが見事に賞を獲得した。初めての文化祭とは思えないほどの意欲と団結力を見せ、西高祭全体を活気づけた。来年は、どのような企画が飛び出してくるのか期待したい。(大澤 理子)